

温室効果ガス削減目標設定に関する演習

環境省

【タイプA：排出量増加～横ばい】

1. 演習の実施要領

架空の地方公共団体 A 市は、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定中です。現在、現況推計の算定が終了し、温室効果ガス削減目標について検討しています。

A 市の 2008 年度の温室効果ガス排出量は、50 万 t-CO₂ で、1990 年比で約 10%増加しています（1990 年度の排出量は 45 万 t-CO₂）。一方で、将来予測（現状趨勢ケース）を算定したところ、2020 年度の排出量は 1990 年比から 5%増加し、約 47 万 t-CO₂ となりました。

また、A 市が位置する X 県の削減目標は、既に策定している地球温暖化対策実行計画の中で、「2020 年までに、1990 年度比で 25%削減する」という目標を掲げています。

A 市の総削減目標を設定するために、以下の STEP1～2 に取り組んでください。

【STEP1】

目標を設定するためには、「3. 削減ポテンシャル量」で算定した削減量をどのように評価しますか。できる限り多くの視点から評価し、その結果と理由についても説明してください。

<検討例>

- ・新たに対策・施策を立案することは可能か。
 - 地域特性に合わせた対策・施策を検討する。
 - A 市の部門別温室効果ガスの、基準年からの変化について要因を検討し、今後の排出の傾向や削減可能性について検討する。

【STEP2】

A 市の目標を設定してください。また、設定した理由についても説明してください。

<検討例>

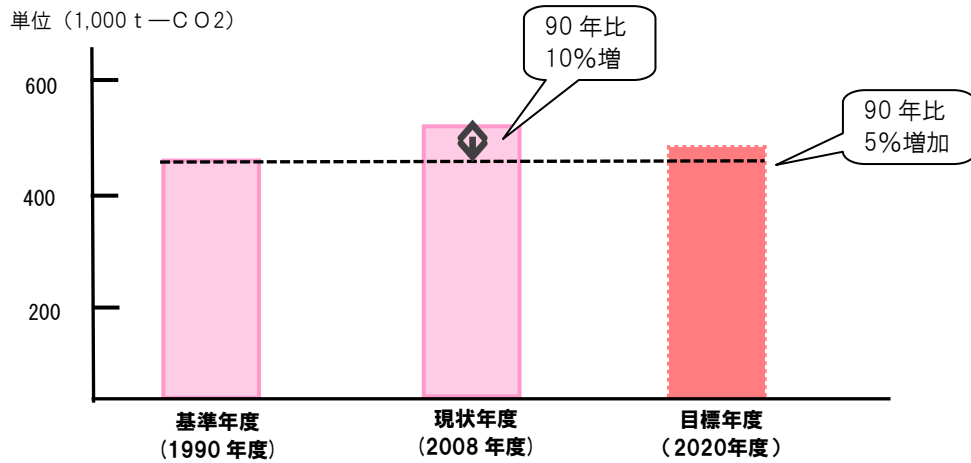
- ・国や県への目標値との関係について
 - 市内及び住民・事業者からどのような意見が出るか、また、そうした意見にどのように回答するか。

※1. 追加で検討する対策・施策については、削減量の算定の必要はありません。あくまで削減見込み量として“約●〇t-CO₂減る”といった感覚で目標を検討してください。

※2. 本資料に記載されていない条件等については、ご自身で設定し、検討してください。

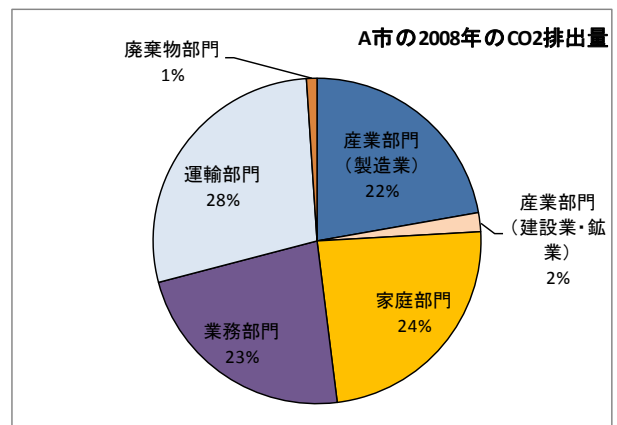
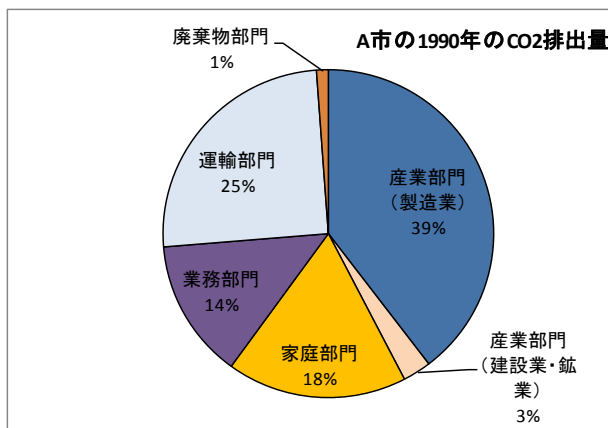
2. A市の地域特性

■温室効果ガス（CO2）排出量

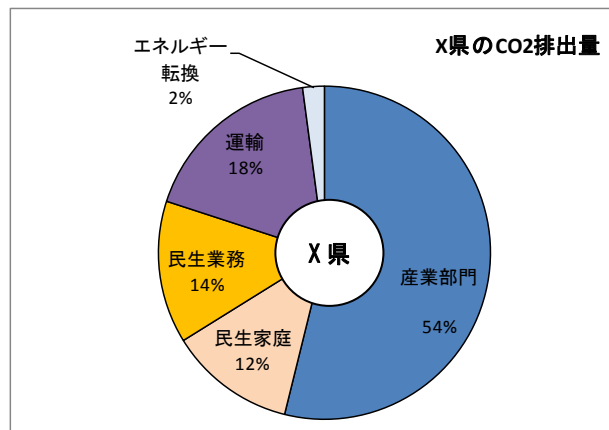


【部門別温室効果ガス（CO2）排出量】

排出量の算定方法は、民生家庭、廃棄物部門はエネルギー消費量やごみ排出量からの積み上げ、その他の部門は県または全国データからの按分とした。



■X県の部門別排出量（2008年度）



■地域特性

- ・ A 市は、製造業を中心とした工業団地が集積しています。これにより、事業者間で情報を共有するネットワークが組織されています。
- ・ A 市は、大都市の近郊に位置しており、ベッドタウン的側面も有しています。
- ・ A 市 2020 年の人口予測は、2008 年度比で 2%減少する見込みとなっています。
- ・ 公共交通は、鉄道・バスが整備されており、都市への通勤等には利用されていますが、日常の買い物や近距離の移動等は、自家用車が中心となっています。
- ・ A 市の地形は全体的に平坦で、温暖な気候となっており、利用可能な再生可能エネルギーは、太陽光や太陽熱等が中心となっています。

3. 削減ポテンシャル量

アンケート調査において、再生可能エネルギー設備の導入意向や、省エネ活動の実施見込みを把握し、以下の削減ポテンシャル量を算定した。また、廃棄物の削減については、「一般廃棄物処理基本計画」の目標値から算定した。

区分	具体的な対策・施策	削減見込み量
再生可能エネルギーの導入	住宅用・業務用太陽光発電システム、住宅用太陽熱温水器の追加導入 等	15,000 t-CO ₂
住民・事業者の活動	家庭における省エネ活動、事業所における省エネ活動・機器設備の改善 等	26,000 t-CO ₂
循環社会の形成	廃棄物の排出量削減	1,000 t-CO ₂
合計		42,000 t-CO ₂ ※1990 年度比で 7%の削減量 (増加分を加味すると、実質は 2%削減)

【タイプB：排出量減少】

1. 演習の実施要領

架空の地方公共団体 B 市は、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定中です。現在、現況推計の算定が終了し、温室効果ガス削減目標について検討しています。

B 市の 2008 年度の温室効果ガス排出量は、30 万 t-CO₂ で、1990 年度比で約 6%減少しています（90 年度は 32 万 t-CO₂）。将来予測（現状趨勢ケース）を算定したところ、2020 年度の排出量は 25 万 t-CO₂ で、1990 年度比で約 22%の減少、2008 年度比では約 17%の減少となりました。

また、B 市が位置する Y 県の削減目標は、既に策定している地球温暖化対策実行計画の中で、「2020 年までに、1990 年度比で 25%削減する」という目標を掲げています。

B 市の総削減目標を設定するために、以下の STEP1～2 に取り組んでください。

【STEP1】

目標を設定するためには、「3. 削減ポテンシャル量」で算定した削減量をどのように評価しますか。できる限り多くの視点から評価し、その結果と理由についても説明してください。

< 検討例 >

- ・新たに対策・施策を立案することは可能か。
→地域特性に合わせた対策・施策を検討する。
→B 市の部門別温室効果ガスの、基準年からの変化について要因を検討し、今後の排出の傾向や削減可能性について検討する。

【STEP2】

B 市の削減目標を設定してください。また、設定した理由についても説明してください。

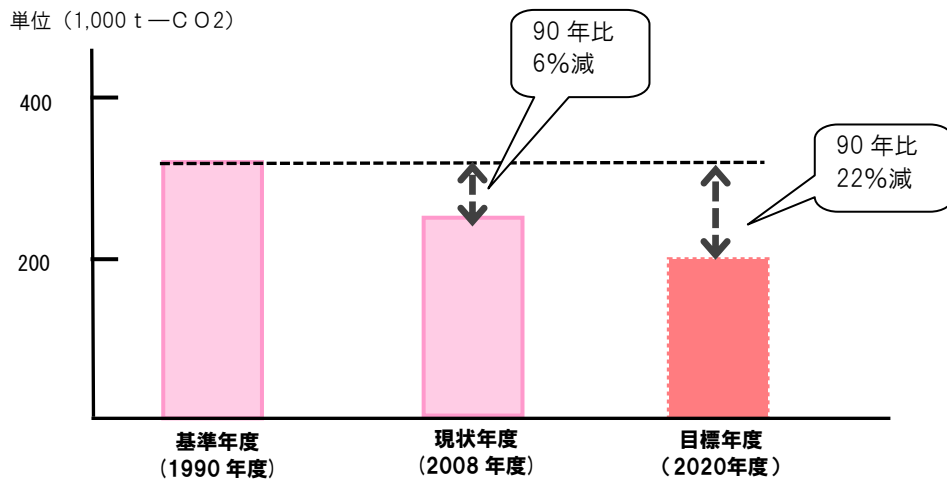
< 検討例 >

- ・国や県への目標値との関係について
→市内及び住民・事業者からどのような意見が出るか、また、そうした意見にどのように回答するか。

※1. 追加で検討する対策・施策については、削減量の算定の必要はありません。あくまで削減見込み量として“約●〇t-CO₂ 減る”といった感覚で目標を検討してください。

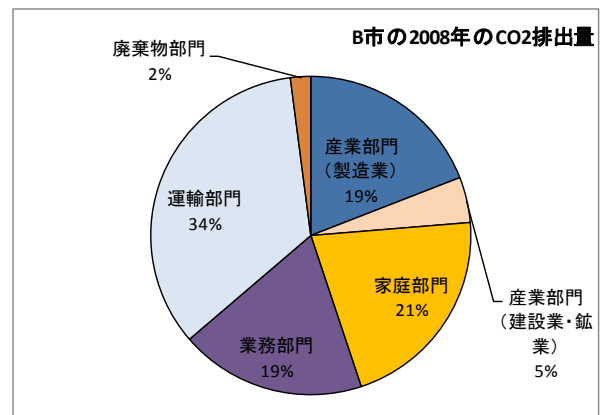
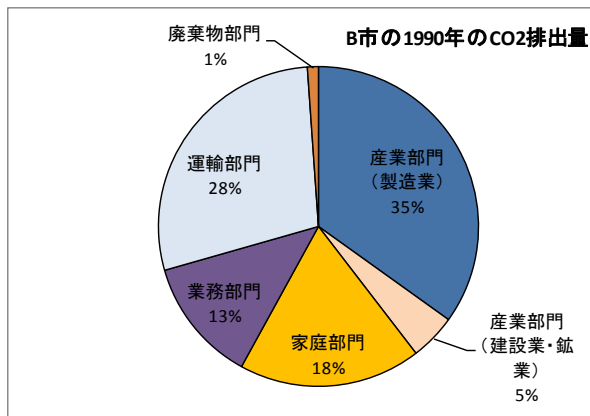
※2. 本資料に記載されていない条件等については、ご自身で設定し、検討してください。

2. B市の地域特性

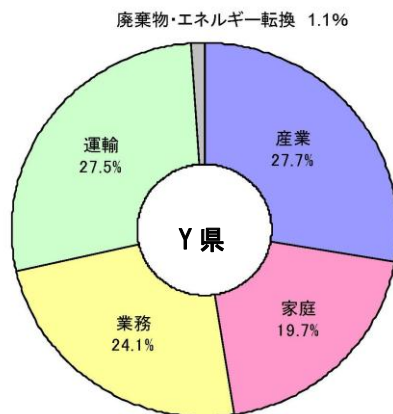


【部門別温室効果ガス (CO₂) 排出量】

排出量の算定方法は、民生家庭、廃棄物部門はエネルギー消費量やごみ排出量からの積み上げ、その他の部門は県または全国データからの按分とした。



■Y県の部門別排出量 (2008年度)



■地域特性

- ・B市は、山間地域で、冬季は数mの積雪がある豪雪地帯となっています。このため、冬の灯油等の燃料使用量が多い傾向にあります。
- ・B市の地形は、山脈や丘陵に囲まれた盆地となっており、市の面積の約8割が山林となっています。また、市の中心部には複数の河川が貫流しています。
- ・B市の人口は大きく減少する見込みとなっており、2020年の人口予測は、2008年比で15%減少する予測となっています。
- ・産業は、農林水産業が中心となっています。
- ・公共交通の利便性は低く、移動には自家用車が不可欠となっています。
- ・市民活動が活発となっており、自治会を中心とした地域活動が、現在も継続して行われています。
- ・再生可能エネルギーは、森林等を利用したバイオマス等が考えられます。

3. 削減ポテンシャル

アンケート調査において、再生可能エネルギー設備の導入意向や、省エネ活動の実施見込みを把握し、以下の削減ポテンシャル量を算定した。また、廃棄物の削減については、「一般廃棄物処理基本計画」の目標値から算定した。

区分	具体的な対策・施策	削減見込み量
再生可能エネルギーの導入	住宅用・業務用太陽光発電システム、住宅用太陽熱温水器の追加導入 等	4,000 t-CO2
住民・事業者の活動	家庭における省エネ活動、事業所における省エネ活動・機器設備の改善 等	5,000 t-CO2
循環社会の形成	廃棄物の排出量削減	600 t-CO2
合計		9,600 t-CO2

※1990年度比で3%の削減

【回答用紙】

【削減目標 タイプA タイプB 】※該当する方に○をつけてください

STEP 1

<削減ポテンシャル量の評価について>

<理 由>

※対策・施策を追加した場合は、その内容についても記入してください。

STEP2

<削減目標>

年度比

%削減

<理由>

宿題

あなたの自治体のCO2排出特性や排出要因を踏まえて、どのような対策・施策を実施することが効果的か考え、部門別に、下記に記入してください。

部門		対策・施策
産業		
民生	家庭	
	業務	
運輸		
一般廃棄物		